

福岡教区の今後の活動方針

2026.8.10

福岡教区では、発災後、これまで複数回にわたり八代教会をはじめとする被災地域を訪問し、現地の状況を確認するとともに、信徒の方々から被災後の状況や地域の課題についてお話を伺ってきました。

カトリック八代教会では、信徒自身も被災する中、地域の方々に対する物資の配布等の支援活動が行われていました。その活動には、多くの外国人の方々が支援を求めて訪れており、八代市および近隣地域で働くフィリピンやベトナム出身の技能実習生等の中には、災害により仕事を失い、生活上の困難を抱えている方がいることが分かりました。

また、被災した独居高齢者の方々からも、生活上の困難や将来への不安を抱えているとの声を多く伺いました。

こうした現地での状況や声を踏まえ、福岡教区として、被災地域に対する今後の関わりを、以下の方針に基づいて進めていきたいと考えています。

なお、当面は3か月を一つの区切りとして活動を行い、その間の活動状況や地域のニーズ等を踏まえて振り返りを行います。その結果をもとに、今後の活動の継続や内容について、改めて検討していきたいと考えています。

【活動方針】

被災した八代市をはじめとする地域に対する福岡教区としての関わりを、今後は「八代教会と教会につながる地域との関わり」、「ボラパックによる地域への関わり」及び「事務局（支援室）の設置」の3本の柱として進めていきます。

① 八代教会と、地域との関わり

被災地域にある唯一の八代教会と、教会につながる方々との関わりを大切にしながら、地域の中で支援を必要としている方々に寄り添う活動を行います。

特に、

- ・すべての被災された方々
- ・被災した外国人や、仕事を失った外国人の方々
- ・独居高齢者の方々
- ・生活に困窮している方々

などとの関わりを大切にし、それぞれが抱える困りごとに耳を傾け、必要な支援につないでいきます。

② ボランティアパックによる地域への関わり

教会につながる方々だけでなく、広く地域の方々と関わる機会として、社会福祉協議会（社協）などが行うボランティア活動への参加を目的とした通称「ボラパック」を定期的に企画します。

熊本発の専用車でボランティアを募り、被災地域での活動に参加することで、より多くの人々が被災地に足を運び、地域の方々と出会い、関わる機会をつくっていきます。

この 2 本の柱を通して、被災地の声に耳を傾け、地域の方々とのつながりを大切にしながら、福岡教区として継続的に被災地域に関わっていきます。

※尚ボランティアパックの開始時期や内容につきましては、現在調整中です。

詳細が決まり次第、改めてお知らせいたしますので、今しばらくお待ちください。

③ 事務局（支援室）の設置

支援する人との関係を大切にしながら支援活動を円滑に運ぶため、教区本部に事務局（支援室）を設置する。

事務局（支援室）の主な活動内容は、次のとおり。

- ・情報の収集と発信
- ・支援者との関わり
- ・募金の管理・活用